



## 福島原子力事故関連情報アーカイブ

Fukushima Nuclear Accident Archive

Title	H*(10)空間線量率に関する除染評価シミュレーション
Alternative_Title	Simulations of remediation strategies and H*(10) air dose rates
Author(s)	Malins, Alex(日本原子力研究開発機構), 操上 広志(日本原子力研究開発機構), 北村 哲浩(日本原子力研究開発機構), 町田 昌彦(日本原子力研究開発機構) Malins, Alex(Japan Atomic Energy Agency); Kurikami, Hiroshi(Japan Atomic Energy Agency); Kitamura, Akihiro(Japan Atomic Energy Agency); Machida, Masahiko(Japan Atomic Energy Agency)
Citation	第5回環境放射能除染研究発表会要旨集, p.95 5th Workshop of Remediation of Radioactive Contamination in Environment
Subject	ポスターセッション3: 除染技術・計測技術
Text Version	Publisher
URL	<a href="http://f-archive.jaea.go.jp/dspace/handle/faa/109512">http://f-archive.jaea.go.jp/dspace/handle/faa/109512</a>
Right	© 2016 Author
Notes	禁無断転載 All rights reserved. 「第5回環境放射能除染研究発表会要旨集」のデータであり、発表内容に変更がある場合があります。 学会は発表の機会を提供しているもので、内容に含まれる技術や研究の成果について保証しているものではないことをお断りいたします。



## H\*(10)空間線量率に関する除染評価シミュレーション

○Alex Malins, 操上広志, 北村哲浩,  
町田昌彦(日本原子力研究開発機構)

空間線量率シミュレーションツールを用いて、除染前後の地上 1m における H\*(10) 空間線量率を評価した。放射性セシウム(Cs-134 と Cs-137)に汚染された土壌を対象とし農地、公園、草原にモデルを適用した。除染方法は下記三つを想定した。

1 表土剥ぎ取り 2 天地返し 3 攪拌耕。

土壌中の放射性セシウムの初期のプロファイルと除染される面積、除去される単位面積当たりの質量に応じてどのように空間線量率が変わるかを計算した。計算結果は、除染前から除染後どの程度空間線量率が残っているかで評価した。放射性セシウムは福島事故後、時間の経過とともに土中深く浸透することを考慮し、事故から経過した時間に応じて除染効率がどのように変わっていくかを明らかにした。